■今月の特選句

2012 年 1 月号

大寒波日本列島反り返る　飯塚ひろし

もともと反り返っているものを寒波のせいにしたところが可笑しい。するてえと、「大寒波北海道が菱形に」なんてことに。

スポーツジム水着正して賀詞交す　伊地知寛

水着には襟がない。「正して」と言われてもねえ。あり得ぬことを大真面目に言って可笑しい。「鏡餅磨いて顔を写しけり」もありですね。

目薬を口開けて待つ小春かな　柴田真一

女房の小春に目薬さしてやるんですね。なんちゃって。ついでに如何ですか、「初惚気(のろけ)膝の小春の耳ほじる」。

芋判に彫りし猪食べにけり　ひがし愛

猪鍋を食わせるからと招待して、芋判の猪を食わせるなんてお洒落ですね。「猪鍋と思へば今年や龍の鍋」。

芋の露大同団結してこぼれ　前川敏夫

大同団結がいいですね。「里芋の葉の露とかく群れたがり」ですね。ならば・・・、「芋の露俳人どれも群れたがり」。

形状を記憶してゆく手套かな　広瀬雅幸

手套は手袋のことですね。形状記憶は写生句としてうまいですね。「ゆびのかたちはなにかを掴み」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

目立つ気のなけれど赤し青木の実　麻生やよひ
・・・おそらくは下戸ちょっぴり舐めたか

夜更かしの証拠隠滅初化粧　石川節子
・・・なま欠伸して結局ばれる

ぽっくりと逝くがよろしきふぐと汁　越前春生
・・・そうは問屋がおろさぬ浮世

木枯に追ひかけられし靴の音　白井道義
・・・背なを押されてつんのめるかに

木の葉髪未練の言葉にじみけり　高田敏男
・・・朝シャンで散る二枚三枚

焼き餅は正月くらい止めときな　森　要
・・・お雑煮にして嫉妬りと食へ

耳疎し第九がんがん鳴らしても　渡辺さだを
・・・ベートーベンもそうだったなあ

クリスマス老婆の口唇奪う猫　柳澤京子
・・・にやんとも言へぬ猫の擬人化

歌句出すも選外佳作日記買ふ　青山桂一
・・・没の句あまた日記にならべ

木枯やただちに人畜影響なし　秋月裕子
・・・西風ならばセシウムはなし

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

似たような新年号の月刊誌　足立淑子
・・・綺麗な印刷広告多く

はしごせぬつもりで始むおでん酒　有冨洋二
・・・断りきれず午前様なり

降るもみぢ片っぱしから掃いてゆく　藤森荘吉
・・・風流知らぬ最近のひと

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】	いづかたへ銀杏落葉の彷徨は	青山桂一
	年古るも鬘もせずに去年今年	青山桂一
【佳作】	草木色づき尾羽色づく冬の鳥	秋月裕子
	長雨にしみじみ寒さきびしかり	秋月裕子
【佳作】	袴着の５分ともたずちびギャング	麻生やよひ
	実を数多残しさつさと柿落葉	麻生やよひ
	おだやかな独り暮らしのお正月	足立淑子
【佳作】	日記始め和の一文字をしたためる	足立淑子
	人数の小銭そろへて初詣	有冨洋二
【佳作】	血糖値計られてをり雪女	有冨洋二
	出番です薄く紅引く雪女郎	有吉堅二
	お里など知れてもよいと着ぶくれぬ	有吉堅二
【佳作】	出る出ない次の嘘を待つ顔に	有吉堅二
	大根引く太く短く我に似て	安藤淑子
	推敲の句整ひ難く街師走	安藤淑子
【佳作】	掃いてなほ積もる落葉に吐息吐く	安藤淑子
【佳作】	襟巻や女将いよいよ若作り	飯塚ひろし
	神楽面取ればいつもの出前持	飯塚ひろし
	田舎の景の中には菊の花	井口夏子
【佳作】	熱燗やへばりつくなり面影が	井口夏子
	やわらかな虫の骸や風に消え	井口夏子
	南無焼かれはったと睨む秋刀魚の眼	池田亮二
【佳作】	人生はブラックホール花と蜜	池田亮二
	貼る懐炉そっとはがして彼の許	石川節子
	着ぶくれて猫のわがまま聞ゐてやる	板倉肱泉
【佳作】	語らねば消えるぞ十二月八日	板倉肱泉
	石蕗の花夜には夜の黄して	板倉肱泉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	傘寿下座卒寿白寿の日向ぼこ	伊地知寛
	一人居の寝はなをおそふ嫁が君	伊地知寛
	濁酒に山よりでかい猪の出て	伊藤浩睦
【佳作】	鳶の子の鷹は肩身のやや狭く	伊藤浩睦
	愛嬌を客に振りまく餌付け鶴	伊藤浩睦
	木枯や松の葉っぱは緑色	稲沢進一
	ぺちゃくちゃとよくしゃべる葉っぱ落ちにけり	稲沢進一
【佳作】	果報とは寝て待つことよ布団干す	稲沢進一
	好物の鯛焼今は昔	井野ひろみ
	早や師走居候の身恙無し	井野ひろみ
【佳作】	若者も師走と聞いて「早っ」と言う	井野ひろみ
	視野狭き指先蟷螂睨みをり	宇佐美徹郎
	休講にどっと繰り出す黄葉路	宇佐美徹郎
【佳作】	火事遠く再び寝息の家となる	宇佐美徹郎
【佳作】	数学は零で始まるお元日	氏家頼一
	読み初めのハナハトマメのなつかしき	氏家頼一
	ぢやぶぢやぶと辰の湯浴みや今朝の春	氏家頼一
【佳作】	閻王の舌に住みつく寒雀	越前春生
	俳号を真似られてゐて冬ぬくし	越前春生
	冬夕焼富士はいづこか富士見坂	奥脇弘久
【佳作】	枯蓮悔いを残さず涙涸れ	奥脇弘久
	晩年を多彩に生きよと柿落葉	奥脇弘久
	あらがひつ老に馴染みつ年暮るる	笠　政人
	外出のど派手な装ひ返り花	笠　政人
【佳作】	狛犬に鳩の糞する神の留守	笠　政人
	晴れ女雨女同乗濃霧なり	加藤澄子
【佳作】	風の音フユーフユーと冬に入る	加藤澄子
	紅葉拾ふたび報告のをさな児は	加藤澄子
	腋を締め商店街の聖歌聞く	加藤　賢
【佳作】	マスク取りいつもの妻の顔となる	加藤　賢
	のつけから小指を立てておでん酒	加藤　賢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	葉を脱いで木々十一月の如く立つ	金澤　健
【佳作】	しがみつくほどもなき世と落葉かな	金澤　健
	愚痴足して具の揃ひけりおでん酒	金澤　健
	冬眠地捜し轢れて墓永眠	川島智子
【佳作】	折れるまで左右に靡く枯尾花	川島智子
	蟷螂の生み終へし目と眼が合ひぬ	川島智子
【佳作】	錆びついた包丁を研ぐ文化の日	久我正明
	湯豆腐のお臍のゴマや鰹節	久我正明
	湯豆腐の般若心経唱へたり	久我正明
【佳作】	顔で泣き手で泣くムンク虎落笛	工藤泰子
	白鳥の浮くに無用のトウシューズ	工藤泰子
	硝子張り下に渦潮息白し	工藤泰子
	名曲の音符逃さじ隙間貼	倉方　稔
	駄菓子屋の裸電灯一葉忌	倉方　稔
【佳作】	幸不幸いくたび転居注連飾	倉方　稔
	濡衣を未だ着せられ年迫る	黒田忠一
	湿布よりヒップ恋しや夜寒かな	黒田忠一
	百円の時計けなげや大旦	小杉　隆
	寝付かれぬ蟻の働く師走かな	小杉　隆
【佳作】	古希姉妹すする支那そば年の暮	小杉　隆
	セーターやいまは褞袍のペアルック	小林英昭
【佳作】	熱燗やお調子者の係長	小林英昭
	振込になつてボーナスかるくなる	小林英昭
【佳作】	早送り見たいわが家の十年後	齋藤八兵衛
	リサイクル別の顔して生き返る	齋藤八兵衛
	ちょっとだけ幸せ気分ほめ言葉	齋藤八兵衛
【佳作】	人の上人を作りて天高し	酒井鹿洋
	日本人盆正月とクルシミマス	酒井鹿洋
	あのあれの老いの会話や忘年会	酒井鹿洋
	遮莫毛を着て入る檻さがす	佐藤古城
【佳作】	秋雨を来てはるさめの店に入る	佐藤古城

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	芋煮会だれも転失気しらん顔	佐藤古城
	過疎の村にＩＴ企業去年今年	佐野萬里子
【佳作】	大粒の銀杏たわわ祖父江町	佐野萬里子
	落葉降る掃けども掃けどもきりもなし	佐野萬里子
	天井を駆け抜く貨車やおでん酒	猿渡　仁
	われ死すをにんわり観をり雪をんな	猿渡　仁
【佳作】	鱧の骨切る包丁のチャッチャッチャッ	猿渡　仁
	よーいどん繰り返しもう年迎へ	澤田蔦恵
	通販のテレビにあふれ年の暮	澤田蔦恵
【佳作】	夜鷹ソバ笛に答へて腹の虫	澤田蔦恵
【佳作】	嚔する風邪ぢやないわよブタ草よ	柴田真一
	堂々と離婚披露宴秋の天	柴田真一
【佳作】	熱燗や泣かず飛ばずのままに古稀	清水呑舟
	まだ続く上司の不満焼鳥屋	清水呑舟
	雑炊や昭和の不良すぐ集ふ	清水呑舟
	銀杏散るやうには散らぬ胃酸過多	下嶋四万歩
【佳作】	おおかたは忘れてしまふ大晦日	下嶋四万歩
	ちょい悪の景色濃くなる枯葎	下嶋四万歩
	美術館トイレに立寄り文化の日	壽命秀次
	古の火炙り刑に秋刀魚焼く	壽命秀次
【佳作】	女教師に太きを見せては蕷掘る子等	壽命秀次
【佳作】	風邪を引くほどの偏差値なき倅	白井道義
	マスクして禁酒禁煙押し通す	白井道義
	何食わぬ顔ぬっと出した採血の腕	鈴木和枝
【佳作】	郵便受けまでの十歩で転んだりして	鈴木和枝
	こびりついたＴＰＰ拭いて採血	鈴木和枝
	青空やテラスに落ちる落葉かな	鈴木哲也
【佳作】	まないたや包丁の音湯豆腐だ	鈴木哲也
	ごぜんには松たけ入りの茶碗蒸し	鈴木哲也
	素通りの石見銀山神の旅	鈴木みのり
【佳作】	はなまるうどん山盛りにのせる葱	鈴木みのり

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	声をのむ結末ホットウィスキー	鈴木みのり
	忘年会無礼講とは口ばかり	高田敏男
【佳作】	鬼瓦ふくら雀を見て笑い	高田敏男
	早世は運命か紅き落ち葉かな	高橋マキコ
	豊作のミカン車道に落ちこぼれ	高橋マキコ
【佳作】	寒晴やスカイツリーに恐れ入る	高橋マキコ
【佳作】	隙間風忍耐補修四十年	高橋　都
	顔見世や大見得を切り戻り来る	高橋　都
	だましたつもりがだまされ狸汁	高橋　都
	お隣の庭の梅見や腹八分	高橋素子
	起さるる朝の冷気に添い寝され	高橋素子
【佳作】	重低音木枯鳴らす琵琶湖は	高橋素子
【佳作】	妻のむく四角の柿の丸くなり	田中章子
	こらへしがジェット発射のくさめかな	田中章子
	吸入器マイク代りに遊びし日	田中章子
【佳作】	小春日や救急車で運ばれたる	田中　勇
	小春日や病室で句を創るなる	田中　勇
	冬の日の退院がのびるなりけり	田中　勇
	松山に三偉人あり秋ともし	田中早苗
【佳作】	うそ寒や会費切れにて来ぬ冊子	田中早苗
	釣果はと問へば干物の秋刀魚なり	田中早苗
【佳作】	暖かき蒲団に籠もる加齢臭	種谷良二
	気がつけば家の蒲団に寝てをりぬ	種谷良二
	帰宅せば朝の蒲団の迎えをり	種谷良二
	風呂吹に味噌でへのへのもへじかな	田村米生
【佳作】	着ぶくれて動くは口と目玉だけ	田村米生
	葱買うて肉屋に寄つて値に迷ふ	田村米生
	千両も万両もある小庭かな	飛田正勝
	永らへて災後見守る去年今年	飛田正勝
【佳作】	逆縁の欠礼状やそぞろ寒	飛田正勝
	東の海より初日山に月	永島董玉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	福笑鼻から下はすぐに顎	永島董玉
	達磨市赤きジャージの親父ゐて	永島董玉
【佳作】	追い付いて追い越してゆく十二月	西をさむ
	十二月無ければ困る百貨店	西をさむ
	カレンダーと私たそがる十二月	西をさむ
	長靴をぐいと引き抜く蓮根堀	原田　曄
【佳作】	長き夜のタイムマシンに乗りに行く	原田　曄
	灯ともして犯人探る夜長かな	原田　曄
【佳作】	一軒家なり木枯しに包囲され	ひがし愛
	蝸牛うまれながらの家主なり	ひがし愛
【佳作】	何の日か子には解らぬ七五三	彦阪義久
	天晴とパズルが表示時雨るる夜	彦阪義久
	開票後二分で当確そぞろ寒	彦阪義久
	福引に当たり車に当たらぬやう	久松久子
	年玉に昔の感覚抜けぬ爺	久松久子
【佳作】	木枯や旅でござんす紋次郎	久松久子
	塩にしようかバターにしようか蒸し芋	日根野聖子
【佳作】	かぶりつく部位を特定鯛焼の	日根野聖子
	脇役のはずが主役にセロリの香	日根野聖子
	品性を問はぬ集ひやおでん鍋	広瀬雅幸
【佳作】	美形にも飽きはくるもの古暦	広瀬雅幸
	夜神楽の八等身の鈿女面	藤岡蒼樹
【佳作】	燗酒や三本目より胃での燗	藤岡蒼樹
	事勿れ二枚舌馴る憂国忌	藤岡蒼樹
【佳作】	わが蒲団だけの芳香ありにけり	藤森荘吉
	期待するどんでん返し年の暮	藤森荘吉
【佳作】	見送りの落葉コロコロ門扉まで	藤原セツ子
	終電車夜景を走り冬の月	藤原セツ子
	看護師の爪は短し年の暮	藤原セツ子
	おすましといふこと知らず柘榴の実	前川敏夫
【佳作】	葉も枝も省略をして柿たわわ	前川敏夫

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	小春日や絵文字書きたい作句の中	松尾軍治
	気がつけば犬猫妻も日向ぼこ	松尾軍治
	枯野宿秘境を守る会の宿	松尾軍治
	冬の海マンボウ黄泉へ向ひけり	丸山紘一
【佳作】	暮の寄席談志偲びて泣き笑ひ	丸山紘一
	「滑稽」の肩身の狭き年暮るる	丸山紘一
	冬麗や骸骨映すレントゲン	三木蒼生
	キリストの成り手なかりし聖夜劇	三木蒼生
【佳作】	シクラメン豚の饅頭とは癪な	三木蒼生
【佳作】	師走空輪を描く鳶の余裕かな	三塚不二
	凍れるや知覚神経臨界値	三塚不二
	霜の花箱根全山クリスタル	三塚不二
【佳作】	関取がしゃがんで目高いじってる	三橋百笑
	失せ物の名前呼び探す日短	三橋百笑
	吾輩は呑むべえなりと秋刀魚焼く	三橋百笑
	突如として垣根の小鳥おしゃべりの止む	宮森　輝
	ポトリポトリ大川端や枯紅葉	宮森　輝
【佳作】	生業を問ひたき家や白木蓮	宮森　輝
	控え目に花柊は陽を弾き	村上美和
	風いらぬ花柊の落つるには	村上美和
【佳作】	立ち話花柊に聞かれをり	村上美和
	鮟鱇の何の因果で吊し切り	百千草
	冬青空未来の我と語り合ふ	百千草
【佳作】	握手の手離れぬ落葉しぐれかな	百千草
	電飾の光を遊ばせ冬電車	森岡香代子
【佳作】	空模様先走りする厚着かな	森岡香代子
【佳作】	除夜の金小銭かぞえて年を越す	森　要
	辰という音の響きでたつかのう	森　要
【佳作】	大石も小石も温め小春の陽	八木　健
	大熊手福かき寄せる義務負ひし	八木　健
	キャンパスに厚塗り冬空のグレイ	八木　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	四人部屋いびきしはぶき冬の床	八洲忙閑
【佳作】	看護師とお通じ交はす冬の朝	八洲忙閑
	尿管の取れて忙しき時雨かな	八洲忙閑
【佳作】	人工の歯に入れ替へる神の留守	柳　紅生
	検眼のいろはを読めり木の葉髪	柳　紅生
	哲学者貌をしてをり枯蟷螂	柳　紅生
【佳作】	初雪の中を走るや共同湯	柳澤京子
	キリタンポするどき嗅覚猫の鼻	柳澤京子
【佳作】	我先と桟敷に集ひ月見雲	山下正純
	オリオンの抱く真珠や胎星雲	山下正純
	水車場にのぼり賑はひ走り蕎麦	山下正純
	狐火やきりん、きつねも俳号よ	山本あかね
	年忘れ下戸のあの子へおぜんざい	山本あかね
【佳作】	小春日やいづれみんなの通る道	山本あかね
	心に化粧歳末の店に立つ	山本けい子
	下戸とても白子酒飲み忘年会	山本けい子
【佳作】	かさかさの落葉の音に追はれけり	山本けい子
【佳作】	買ひこんだ五冊の本と年を越す	山本　賜
	また来るよ冬瓜だけを置いて去る	山本　賜
	くろぐろと十一月の日影かな	山本　賜
	全集はマンションとなり紙魚の棲む	横山喜三郎
	虫の宿耳栓をして床につく	横山喜三郎
【佳作】	ふりそそぐ視線を撥ねてビキニゆく	横山喜三郎
【佳作】	熱燗にすぐ目の潤む齢かな	渡辺さだを
	夕陽浴び紅葉はかつと燃えて散る	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。